

変革への挑戦

ITツールを導入する先行企業のケース・スタディ

経営課題を解決する方法の1つにシステムのIT(情報技術)化があります。しかし、導入による効果はあるのか、どのように取り組んでいるのかなど疑問もあるはず。そこで、実際にIT化に取り組んだ会員企業の実例をご紹介します。

(株) 広洋エンジニアリング

(株) 広洋エンジニアリングは、農業機械メーカーに勤めていた先代社長が独立し、根菜類の収穫といった農業用機械の図面に係る設計事務所として開業。1978年1月に農業用機械製造・販売までを一気通貫して行うため、法人を設立しました。

現在2代目となる久一旬弥氏が中心となり、全国各地のお客様の使用用途に合わせた農業用機械を提供しています。

» 業務データ管理・保管が課題

同社では、見積書や社内文書等のデータをNASサーバーに保存していました。そのような中、NASサーバーが破損したことにより、データの抽出ができなくなるなど業務に支障を来す事象が発生しました。

一時的にサーバーが復旧したことで大きな影響は生じなかったものの、**データ管理・保管方法が今後の課題**となりました。

» コロナ禍や自然災害により課題が一層顕著に

また、全国各地の農家が取引先となっている同社において、顧客からの問い合わせ等に対して迅速に対応する必要があります。昨今の新型コロナウイルス感染症や、集中豪雨といった自然災害などの影響により、「事務所だけでなく業務ができない」という社内体制が顕著に現れたことで、クラウドによるデータ保管とあわせてテレワーク等が可能となる体制づくりも急務となりました。

「SAI-デジ」ストレージを活用し、クラウドデータ保管・共有を実現！

Introduced IT tools

- ◆ 「SAI-デジ」(ストレージ)
- ◆ 会計ソフト (MJSかんたん! 会計)
- ◆ 3DCADソフト (Inventor)
- ◆ 販売管理ソフト (商魂・商管) など

DATA

住所 ▶ 本社：さいたま市大宮区上小町325
営業本部・工場：埼玉県比企郡川島町大字上大屋敷78
TEL ▶ 049-291-0700
HP ▶ <https://www.koyoeg.co.jp/>
事業内容 ▶ 農業用機械製造・販売



» ストレージを活用したBCP対策に着手

クラウドによるデータ保管とテレワークによる業務実施を両立するため、自社に合ったクラウドサービスを模索していたところ、商工会議所「SAI-デジ」を目にしました。

商工会議所が提供するサービスであること、他のサービスと比較して安価であったことやサービス内容が自社の規模に合致していたことが決め手となり「SAI-デジ」のストレージを導入しました。

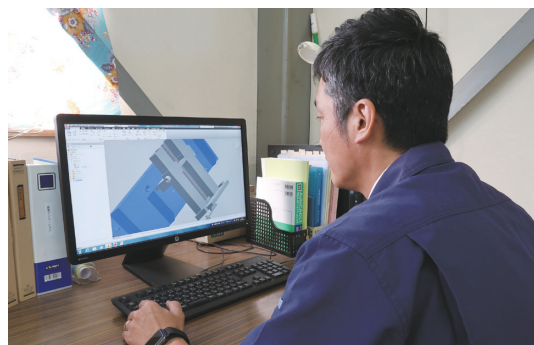
NASで保管していたデータをすべてクラウドへ移管することで、安全なデータ保管体制を構築し、比較的出張の多い久一社長と事務所内職員間での遠隔によるデータ共有が可能となりました。

データ保管等の重要性を痛感した同社だからこそ、クラウドによるデータ保管が必要不可欠となっており、今では従業員全体に浸透したことで**事務所外においてもタイムリーな情報共有が可能**となっています。

設計図面書類のペーパーレス化や会計ソフトとインターネットバンキング機能の連携など、今後取り組む部分は多くあります。日進月歩で進むデジタルツールなどに関する知識の習得を続けながら、事業の継続発展に向けた歩みを一歩ずつ進めていきます。



社内業務のデジタル化を進める久一旬弥社長



CADのソフトを活用した製品設計・製造